

ワールドカップから思うこと

こんにちは。

今月からサッカーのワールドカップがはじまり、サッカーが好きな私は寝不足の毎日を送っております。

さて、今回のワールドカップの開催地の南アフリカ共和国は開催にあたり、治安面での不安などがメディアによって取り沙汰されてきました。そして、必ずと言っていいほどアパルトヘイトという白人と黒人とを差別的に隔離する人種隔離政策が話題になります。

この政策は1994年に完全撤廃されましたが、撤廃されるまでは人種ごとに居住区が決められており、レストラン、ホテル、列車、バスに公衆トイレまで公共施設はすべて白人用と黒人用に区別され、白人専用の公園などの場所に立ち立った黒人はすぐに逮捕されたそうです。さらに、黒人は安価な労働力としてしかみなされず、給料は白人の10分の1以下だったそうです。

私は、この人種差別政策は非人間的であり、生まれもった属性により人が差別されるなどということは到底許されるべきことではないと思います。しかし、私は次のような経験を思い出しました。

私が街の路地を歩いていた時に、黒人の3人組とすれ違いました。その時「ちょっと怖いな」と感じ、それと同時にジーンズの後ろのポケットに入れていた財布があるかどうかを確認していました。

私は過去に黒人から危険な目に遭わされたこともありませんし、嫌な思いをした経験也没有せん。しかし、怖いと感じ、無意識的に財布の確認をしていたのです。これは白人とすれ違ってても、抱いたことのない感覚です。

頭では、人種差別は愚かなことだと分かっているながらも、相手が黒人というだけで、何かされるかもしれないという、まさに差別感情が沸き起こってくるのです。少し考えてみれば自分自身も非白人であり、有色人種にも関わらず、黒人に対して差別心を持ってしまうという、なんともおかしい構図です。

アパルトヘイトを遠い国の過去の差別と思っていた私は、今回のワールドカップによって、私の中に潜在する差別心に改めて気づかされました。